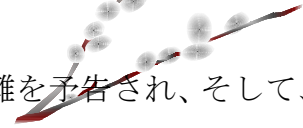


## 説教要旨 「受難への旅立ち」

ルカによる福音書 9 章 5 1 ～ 5 6 節



イエス様はこれまで、二度にわたって自らが受ける受難を予告され、そして、いよいよその受難の地、エルサレムに向かって旅立たれました。イエス様はエルサレムを目指すにあたって、ガリラヤ地方からまっすぐ南へ降り、サマリア地方を通過してエルサレムへと向かう道を選ばれました。このルートの選び方は、あまり一般的なものではなかったようです。というのはこの当時、ユダヤ人と、サマリア人とは大変に仲が悪く、互いに互いを非難していました。ユダヤ人はサマリア人をエルサレムの神殿から排除し、排除されたサマリア人はゲリジム山を聖地としてそこで礼拝をささげていました。ですから、エルサレムへと上っていくユダヤ人であるイエス様と弟子たちの一行をサマリア人が歓迎しないのは当然で、これはイエス様とその弟子だから、拒まれたということではありません。イエス様は、そうした事情を承知の上で、このサマリア地方を通り抜けようとされ、案の定、拒絶されたのです。そうしたサマリア人の敵意に対して、弟子のヤコブとヨハネは、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」(54 節)と敵意をもって応えようとしますが、イエス様は彼らをたしなめられました。

イエス様がエルサレムへ向かわれた目的、それは自らが多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活するためです。エルサレムへと向かう道は、十字架上での死へと向かう道です。苦しみを引き受け、担うための歩みです。そのことが今の弟子たちにはまだ分かりません。誰が一番偉いかと議論をし、自分たちに従わないで、独自に悪霊払いを行う者を蔑み、さらに今は敵対する者を自分たちが裁いてやると意気込んでいます。けれどもイエス様はご存知です。神の国はそういう形では決してやって来ないのだ、と。

イエス様が示してくださった神の国は、従わない者は滅ぼしたり、力で押さえつけて従わせたりした先にはありません。神の国は、神様の支配は、イエス様の十字架上での苦しみを通して、初めて実現していくのです。